

# 産学連携・高大連携で誕生した親孝行スイーツ ハイスクールマフィン

## IPU環太平洋大学 サステナブルブランドプロジェクト

代表：経済経営学部 現代経営学科 扇野ゼミ 4年 林 海穂  
坂出第一高等学校 食物科製菓部 3年 西紋 百合香／2年 森 雫那

### ①みどり戦略との関連性

## 環境にやさしい持続可能な消費の拡大や食育の推進に貢献

高校生・大学生・企業が連携して開発した「ハイスクールマフィン」は、

- 香川県産の国産素材（さぬきの夢・おいでまい・さぬき讃レモン）を使用
- 製造過程で出る柑橘果皮をパウダー化して再利用（食品ロス削減）
- 希少糖による血糖値配慮で健康志向にも対応

という環境・健康・社会に配慮したウェルビーイングなスイーツです。

子ども食堂への寄付も行い、「おいしさ」が「やさしさ」につながる“幸循環”を生み出しています。

消費を通じて、未来と地域を支えるブランド体験を提供します。



### ②目的

【パーパス（存在意義）】  
スイーツで家族と地域の笑顔をつくる

【ビジョン（目指す未来）】  
スイーツを通じた幸循環

【ミッション（果たすべき役割）】  
健康と環境に配慮 × 地域資源 × Z世代と共創

### ③取組内容



2024年5月7日 坂出第一高等学校にて産学・高大連携瀬戸内ブランドづくりキックオフを開催。  
香川県のくりや株式会社（米穀小売・卸売業）代表取締役 徳永 真悟様、徳島県の株式会社小林ゴールドエッグ（鶏卵卸業）代表取締役 小林 真作様など地元の生産者の方々から詳しくお話を伺いし、大学生・高校生と一緒に新商品開発のワークショップを実施。四国新聞、物流ニッポンに掲載される。



2024年6月7日には、香川の物流企業、株式会社朝日通商主催のビジネスコミュニティ「第12回瀬戸内グローバルラボ」に参加。5月のキックオフで分かれたグループごとに、紹介していただいた食材や最新のトレンドを取り入れ、5種類のスイーツを開発し、試食を実施。  
“捨てられてしまうものに新たな価値を吹き込み、ゴミを宝物に変える”というアップサイクルの発想を意識し、常温で持ち運びやすく、自分用とお土産にも使えることや、環境や地域、社会や人にやさしい素材を選ぶことなどのアドバイスを踏まえてさらなるブラッシュアップに取り組む。



2024年8月～9月は、ターゲットの選定について坂出第一高等学校にて高大連携授業を実施。希少糖を使用し、自分たちの親世代でも体型や血糖値を気にせず安心して食べられる親孝行スイーツという市場をブルーオーシャンとする。スイーツを何度も作り直し、常温でも流通させやすいマフィンをベースに開発を進めることになる。



2024年10月13日には、瀬戸大橋のふもと、岡山と香川の間にある与島パーキングエリアでテストマーケティングを実施。96セットを完売できたものの、原材料や価格、パッケージなど、顧客目線での様々な改良ポイントに気づく。



2024年12月～2025年2月にかけて、香川の菓子製造販売業・株式会社ルーフ 代表取締役社長 野崎 幸三様と量産用のレシピを開発。ルーフで発生する柑橘類を絞った後の果皮を粉末にし、マフィンに入れ、何度も試食を実施。ネーミングも決定。



2025年5月2日より、「かがわ物産館 栗林庵」にて販売開始。個包装 291円、3個入箱 980円。



2025年5月24日に、「かがわ物産館 栗林庵」にて販売会を実施。10時から15時までに300個が完売し、その様子が地元の山陽新聞に掲載される。



2025年8月9日に、坂出市のみのクリニック様が運営する子ども食堂へお伺いし、ハイスクールマフィンの売上の一部を使って手作りしたお菓子を50セット贈呈。



2025年8月22日、坂出第一高等学校にて、「Z世代と企業が育てる、地域ブランドの“種”」と題して「第13回瀬戸内グローバルラボ」が開催。産学官金言労士の参加者の前で、1年間の取組を発表する。



2025年9月1日より、東京新橋にあるアンテナショップ、「香川・愛媛せとうち旬彩館」にて販売開始。個包装を100個、3個入を50箱納品。



2025年11月1日、東京で開催された「ブランドマネジメントアワード2025」にて、高大連携として初の奨励賞を受賞。

### ④結果

|        | 2025/5 | 2025/6 | 2025/7 | 2025/8 | 2025/9 | 2025/10 | 合計    |
|--------|--------|--------|--------|--------|--------|---------|-------|
| 製造数    | 425    | 135    | 19     | 147    | 300    | 380     | 1,406 |
| 個包装(個) |        |        |        |        |        |         |       |
| 3箱入(箱) | 342    | 181    | 258    | 150    | 85     | 60      | 1,076 |

### ⑤まとめ

高校生・大学生・地元企業が三位一体となって開発した「ハイスクールマフィン」は、消費者に新たな価値（＝親孝行 × 健康 × 地域貢献）を提供するだけでなく、教育と地域産業が融合する新たなサステナブルな仕組みとして、次世代型食育と地域ブランド創出の可能性を示した。今後は、地産外売を実現するために「ハイスクールシリーズ」第二弾の開発に着手し、スイーツを通じた幸循環に向けて、さらなる挑戦を続けていく所存である。

<https://ipu.okayama.jp/>

